

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

Vol. **118-119**
合併号

2000(平成12)年
12月25日発行

コロ- 社会福祉
法人 東京コロニー
〒165-0023 東京都中野区
江原町2-6-2
電話 03-3952-6166
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートバンクギャラリー 48 作者 野村育葉さん(詳しくはP15をご覧ください)

アジア太平洋障害者の10年
1993年～2002年

コロニー印刷所・コロニー中野(〒165-0023中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山(〒189-0001東村山市秋津町2-22-9)・IT事業本部・デジタルメディアセンター・障害者アートバンク・トーコロ情報処理センター事業部・職能開発室(〒162-0051新宿区西早稲田2-2-8)・大田福祉工場(〒143-0015大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002東村山市青葉町2-39-10)

時評

革命時代の21世紀へ

理事長 調 一興
しらべ かずおき

ひとつの世紀の終わりとはじまりというのに、なにか区切りがつかないというか、低迷と停滞の中に漂っているような気分です、新しい年を迎えた人も多いと思います。

すでに始まっているIT革命の時代が本格化する二十一世紀に入ったというのに、この国は未だに旧い社会体制を温存し、引きずりながら、それに手をつけようとしないうで、IT先進国をめざすと、政府は声高に言います。IT革命は単なる技術革命への対応と理解されているとしたら、それは大変な誤りです。

この革命は社会制度全体に大きい変革をともなうものであります。農業社会から産業革命(物づくり社会)を経て、IT革命(知識社会とも言う)への、ひとつの時代の終わり、新しい時代のはじまりであります。政治・経済・社会・文化のあらゆる面で、すでに構造的な大変革が起こりはじめています。

物づくりの時代から、ITの急速な発展を先導役とした知識社会への移行であります。

国の経済政策も、従来の手法による景気対策では効果が上がらなくなっています。消費動向が変わっているのに、消費の上昇や設備投資にウエイトをおいた景気対策が進められ、失敗を続けています。

政治もその体質の旧さを露呈し、時代の流れから取り残された姿を

民の前にあらわに見せています。政府・与党への支持率の低さだけでなく、野党への支持率も低いという国民の意識は、政治家全体の不信を反映したものとみるべきでしょう。

農業社会では、仕事も生活も家族を単位として行なっていました。産業社会に移行して、人口の都市への集中が始まり、核家族が進む中で、家族中心から個人中心の社会へ制度的にも移りました。欧米はそのような変化を遂げました。

わが国は明治維新によって産業社会に移行し、工業化が進む中で最初は農家の後継者とならない次・三男が都市に移動したが、戦後の高度成長の時代に、急激な人口移動(都市集中)が起こり、核家族化が進んで、実態のうえでは個人中心の社会に移行しました。

しかし、旧い家族制度はそのまま温存し、社会的に弱い人々がそのしわ寄せを受けて、苦しんでいます。また、家族が大切だといっている一方では単身赴任などがあたりまえのように行なわれています。

血族と家族の関係を同一にしたままで、制度的な近代化が進められていないのです。

私が政治や経済について述べたり、時代と乖離した社会制度について問題を提起せざるを得ないと考えるのは、障害者問題、その中の東京

コロナーの事業などと深く関わっているからです。自分たちで道を切り拓いていかなければ明日が見えないことを痛感するからです。

家族介護から社会介護制度への転換を図るものとして私たちも評価して賛成した介護保険制度も、応益負担の原則を取り入れたことで、現実には負担が増えて、低所得者は、介護の質も量も低下しています。この問題も、個人としての尊厳とか、人間の幸・不幸についても一度問い直し、現実的な改善を進めていくことが必要です。

知識社会(IT革命)における人間の生活のあり方を、心豊かな生活の実現に目標をおいて、総合的な計画を策定して強く推進することを国等に求めたいと思います。

障害者問題もIT革命が進む中で、これを社会の変革と正しく受けとめて、将来を見つめながら、従来からの施策や制度の改善・充実、残されている課題の実現に向けて努力しなければならぬと思います。

新年度は、平成十五年度から実施される措置制度から契約制度への移行の具体的方針が定められます。

授産施設の場合は、とくに問題が多く、なぜ利用料を払うのかという問題をはじめ、多くの問題があります。関係団体はしっかりと対応しなければなりません。

新たな世紀への課題

「社会就労センター（授産施設）」に求められるもの

常務理事 勝又 和夫

1. はじめに

この間、私たちの福祉を取り巻く環境は介護保険法の本年4月からの施行や社会福祉事業法を始めとする関係8法の改正、さらには地方分権法の成立と省庁統合の進展等、目まぐるしく変化を始め、こうした流れの中から会計基準の施行やサービスクラウドの一部実施等、実施に移されるものが次々と私たちの前に現れてきています。

これらの変化について、何がどう変わるか、というより、障害当事者にとってこの変わり方が何をもちたらし、将来的にどうなり、さらにこれらでの矛盾がどう改善されるのか、という視点で見た場合、当法人を始め先進的に授産事業に取り組んできた者にとっては、極論的には職業リハビリテーション体系の中における矛盾にはほとんど改善が無く、むしろ規制緩和と逆行する会計基準や自己評価基準よっての締め付け強化など、基礎構造を改革するというには

実にもの足りないものに見えます。

今後に予想される改革においても小規模施設・社会福祉法人の出現は一方から見れば大きな改善や前進ですが、小規模作業所の特徴である多様なニーズを受け止めたいサービスクラウド的な機能が重複される施設が多い中での一時的な授産施設化は、唯一経済活動を前提とする授産施設からはその性格をあいまいにし逆に既存施設の補助基準の切り下げや授産活動の活性化に足枷になりかねない要素が含まれています。また、省庁統合では労働者の障害者雇用施策や重度多数雇用事業所制度と厚生行政における就労施策との関係性の整理、さらには授産施設の定義法である生活保護法の見直しの方向によって影響がないとは言えず、改めて授産施設とは何か、授産施設の社会的な有用性の証明、等、新たな課題が私たちに突きつけられています。

2. 障害者にとっての働く場の保障

日本リハビリテーション協会が発行する「ノーマライゼーション」に、京極高宣先生がシリーズで「障害者の経済学」として障害者の働くことの意味や意義、障害者雇用制度の全体、さらには福祉的就労の問題等について、非常に興味深い見方を示しつつあります。

私はここ数年はからずも全社協・社会就労センター協議会、中央セルプセンター、東京都セルプセンター、中野区障害者就労支援ネットワーク等、障害者の働く場の問題にややグロバルな立場で関わることになっていきます。もちろん当法人の授産事業にも直接関わり、その厳しさを身を持って実感しています。わが国の大きな制度や仕組みの変化に対し、私たちの事業そのものの「事業の意味」や「障害を持つ人たちの働くことの意味」について一般社会の日常的には私たちとの関わりがない人たちにこそきちんと理解してもらう理論

的な裏付けや誰にも解る言葉を持たなければ、私たちの存在そのものが否定されかねない危険を感じつつあります。

私に東京都セルプセンターの発足の動機づけや必要性に示唆を与えてくれたものに、高齢者の社会参加への大きな取り組みとなった東京都シルバー人材センターの発足時に東大の総長だった大河内一男先生が書かれた設立趣意書があります。

「社会への参加の証し」社会から必要とされる存在であり続けることであって、その結果として分配金というお金を得て、経済活動として社会を支える存在になること、等であると記憶しています。私たちが障害者にとってもこの3点は共通していると思えますし、さらに加えるとするならば、「一般就職を含め働く場を得ることは、結果として社会的コストを負担する側にまわることになり、一般就職が難しい場合であっても就労の場が得られることは社会的なコストを低減させる効果が絶対的にある」という社会的な役割もあると思えます。

京極先生の結論が最終的にどうなるか興味深いものがありますが、私は改めて障害者就労のこの4つのことをもつと平易にそして具体的な数字に置き換えて社会に示し、一連の福祉改革に対し、授産施設の有用性と絶対的な必要性を視点を変えて社

会に問題提起すべきだと考えています。

3. 最後に

ここ何年かの動きの中で、「チャレンジド」という言葉をもって多くの人たちに支持を得ている大阪の社会福祉法人の活動があります。

また、乙武洋匡さんの「五体不満足」(講談社刊)の発行部数が五〇〇万部に迫る勢いで非常に多くの人たちに読まれていきます。

障害を有する人たちは未認定者を含め国民の5%程度が最大値とかわれませんが、私たちはむしろこの二つの事例も見ると障害を持たない95%の人たちにどう理解してもらえらるか、またどのような言葉を持つたら広がりとなるかが、逆に言うなら5%の中で起きていることを国民の多くの人たちに共感と同感をもって受け止めてもらえることだと思えます。

授産施設の将来に亘るあり様については、この95%の人たちの視点で理解してもらえることが、実は今、本当に求められていることではないでしょうか。

私たちのやっていることは絶対的に社会的には不可欠のものであると私は認識しています。

新たな世紀への課題

(経営改善に向けて)

印刷事業の現状と中期展望について

印刷事業本部長・中野工場長 武者 明彦

1. コロニー印刷の現状

バブル以降長い低迷期にあった法人の印刷事業(コロニー印刷)ですが、印刷三工場のうち大田福祉工場(大田工場)、コロニー東村山(東村山工場)が1999年度決算で黒字化し、コロニー中野(中野工場)についても今年度上半期を終えたところで対前年比が大きく好転しつつあり、印刷事業全体としてようやく回復の兆しが数字の上に現れてきました。とは言え、今年度下半期の事業予測はなかなか厳しいものがありますし、印刷事業全体が黒字化するにはこれまで以上の努力が必要であり、用紙の値上げなどによるマイナ要素を考えると安心できる水準になつたとはとても言えません。さらに、この間に膨らんだ累積欠損は大変大きなものであり、今までの手法の延長でこれを埋めこむことは極めて困難であると思えます。

21世紀を迎えるにあたり、コロニー印刷の現状を簡単に分析しまとめたうえで、これからの事業について中

期的に展望してみたいと思います。

2. コロニー印刷の事業状況

1999年度における印刷事業全体での年間売上高は約29億7千万円であり、98年度に比べて2億2千万円程落ち込みました。2000年度上半期は対前年比で売上が83%増加しており、比較的順調に事業が推移している要因の一つとなっています。

一方加工高は、1999年度の年間実績で15億2千万円弱でありほぼ98年度並を確保、売上が大きく落ち込んだ影響を免れることができました。しかし2000年度の上半期は売上高が大きく好転したにも関わらず前年同期より加工高が落ち込んでおり、厳しい下半期予測に繋がっています。

印刷事業についてはこの5年間で3億円以上の自己資金を投入しながら再建を図ってきた経緯があります。その結果、印刷前工程のデジタル化がほぼ完了し、事業所間や事業所内部のネットワーク化が進み、営業面ではホームページなどを中心にデジ

タル関連受注が増えつつあるなど、社会の情報化に伴うデジタル化については一定の目途がつきつつあります。その一方カラー印刷物や大口の印刷物など、受注があっても設備がないために外注生産せざるを得ない仕事が増加してきており、外注費の内部への取り込みが最大の課題となっています。

3. データから見たコロニー印刷

顧客構成別の売上高を前年度のデータで見ると、約30億円の売上高のうち組合・団体からの売上が32.9%と最も多く、次いで官公庁が32.3%、会社・商店が16.6%、学校関係が7.4%、その他が10.8%程となっています。東村山工場は組合・団体が40%、官公庁が20.8%、学校関係が19.6%と満遍なく各分野にまたがって受注しているの比較的売上で変動の影響が少なくですんでいます。大田工場では東京都からの売上高比率が63.6%に、中野工場では組合・団体関連の比率が54.6%になつており、主要分野からの

受注が激減しつつあるというのが各工場に共通する特徴になってい

ます。

印刷物を版式別に見ると、モノクロ単色印刷ものの売上高比率が高く、全体の57.7%（この内、製版フィルムを使わないダイレクト製版が20%ほど）を占めています。オールカラーの印刷物が23%、カラー以外の多色刷が13.0%となっていますが、オールカラーの比率は年々増加してきており、さらにデータに現れない部分的にカラー印刷が含まれる印刷物も相当数あると見ています。

製品の種類別では、書籍、雑誌、パンフレット、名簿など冊子ものの売上高比率が60.0%（うち資料関係が38.6%を占める）で最も高く、ポスター、チラシ、リーフレット、新聞などのシートものが30%、帳票や用箋などの事務用品が58%となっています。ここ数年資料関係の印刷物の落ち込みが激しく、これは顧客が内部対応を始めた結果であろうと思います。

4. 印刷業界の中期展望

全日本印刷工業組合連合会（全印工連）は、21世紀の業界計画として2005年を目標にした中期計画を策定しました。この「全印工連2005計画」は、先に通産省が策定した「2000年の印刷産業ビジョン」とは違い印刷業界が独自に計画した

ものであり、それだけに具体的に、個々の事業所の強みや弱点、個性などを前提に計画を策定することができ、大変に多様性と柔軟性のあるビジョンになっています。

これを要約すると「印刷の市場も技術も成熟しており印刷出荷額の伸びはGNPの伸びを超えなくなったのに、技術の進歩はオフ輪の普及を加速し供給過剰な状況を引き起こした。印刷前工程のデジタル化、DTP化はアマチュアのプロ化とプロのアマチュア化をもたらし、価値を低減させた。顧客の値下げ圧力もあり価格破壊が起こった。小ロット化が進み、短納期対応力、トータルコストダウン力と共に、営業の生産性改善が問われ始めている。これは一方

向の変化であり元に戻ることはない。今後は自社の強みを問い直し、独自性を確立することで、新しい可能性に挑戦していかなければならないが、この際のキーワードは、FA化とデジタルメディアビジネスの展開、eビジネス対応である。」となるのではないかと思います。

5. コロニー印刷の中期展望と取り組むべき課題

印刷技術協会などの経営指標との比較で検討した結果においても、当法人の印刷設備が売上規模に対して大変貧弱であることがわかります。大田工場については、カラー印刷

及び、大口の平綴じ製本に対応する設備が整備された本格的な印刷工場になりましたが、中野工場、東村山工場についてはモノクロの資料関連の印刷物に対応できる小規模の設備しかされていません。両工場とも土地も狭く、建物も限界まで使い切っている上老朽化が進んでおり、現状のまま新たな設備をすることは極めて困難な状況下にあります。その上二つの工場が分散しているために機能的に設備を使うことが非常に難しくなっています。

現状を打開し将来展望を開くために50人規模の社会事業授産施設（新工場）を建設し、中野、東村山工場の印刷製本設備を有機的に再構成するとともに、大田工場に匹敵するカラー印刷機と中綴じ製本に対応できる製本のラインを新たに導入する案が10月の理事会、及び11月の評議員会において検討され、事業を推進することが決定されました。

この事業は、土地については国有地の払い下げが前提となっていますし、建物と設備についても助成団体からの補助が前提となっています。

何が欠けても成しえないプロジェクトですが、各方面のご理解とご協力とを頂きながら2002年の開設に向けて計画の具体化作業を着実に進めていきたいと思っております。機械力で稼ぐべきところにはしっかりと受注に見合った設備を導入し、内製

化を図ることが印刷事業再生の切り札になると考えております。各方面のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

もう片方では、ハードウェアの整備に歩調を合わせて、多くの障害者従業員が働く印刷前工程についても印刷機に版を供給するだけの機能から脱皮し、新たな分野の仕事を開拓する部門へと、もう一段階の変身を図る必要があります。

このところ急激に官公庁からの受注が減少している背景には、資料など内部文書の内作化を手始めに、国や自治体のIT化が急速に進んでいることがあると思われ、紙媒体で培ったノウハウを活かしてあらゆる電子媒体に展開する技術を身につけることを最優先課題として取り組まなければなりません。そしてIT事業本部などの連携によって、文書のデータベース化やウェブサイトの構築などを通じて顧客のIT化を支援できるだけのノウハウを早急に身につけ、さまざまな要求に応えられるようにすることがつづく課題です。

また、企業や組合・団体関連顧客についても合理化の動きに拍車がかかることは間違いありません。顧客の間接経費削減要求にこたえるために、会員管理、在庫管理、分梱・発送などのアウトソーシング化に対応することで、新たな事業が展開でき

るのではないかと期待しています。

さらには、地域福祉がすすむなか、地域生活支援や就労支援など、コロニーがその存在を賭けて進めてきた福祉そのものについても事業化の視野に入れるべきであると思います。

新工場の開設を一つのゴールに見立てて、今後相当な勢いで取り組まなければならないものはまだあります。用紙・感材・インキ・機械装置・溶剤などの環境対応や、ISOシリーズ認証取得などによる品質保証システムの導入がその一つです。また工場間の情報・物流の効率化を前提に電子商取引のノウハウを構築することは、今後インターネット上での印刷物などの企画・見積もり・受発注・情報提供などに応用できると思われる、取り組むべき課題の一つです。

また、地域福祉が進むなかでは地元自治体との協力関係がますます重要になってきますが、新たな施設を受け入れると地元自治体の財政負担が増える、との懸念が生じる恐れがあり、このことが施設建設のブレーキにならないよう、国や都による特別交付金制度の導入など、受け入れ側の自治体に対する何らかの財政面での支援策が今後必要になるのではないかと思います。このことは施設側からも提言してゆく必要があると感じています。

トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック

法人本部

NECソフト株式会社様へ 感謝状贈呈

さる11月29日法人本部において、NECソフト株式会社 代表取締役社長 関隆明氏をお招きして、理事長（代理・勝又和夫常務理事）より感謝状を贈呈いたしました。

当法人が東京都等の補助金を受けて取り組んで来た「東京都重度障害者在宅パソコン講習事業」は、本年度で18期を迎えますが、このたび、NECソフト株式会社様が始められた先端情報通信技術を駆使した障害者の在宅勤務事業に、この講習修了生を積極的に採用していただくことになりました。

このことは、障害者の雇用機会の拡大や新たな雇用形態の探求等の観点から非常に意義深く、11月25日に開催された当法人の評議員会・理事会に提案し感謝状を贈呈させていただきましたこととしたものです。当日は、理事長が体調を崩されたため出席出来ませんでした。当該事業の責任者である勝又常務理事が感謝状を代読して贈呈させていただきました。事業の実務担当者である堀込トーコ情報処理センター 職能開発室課長も同席してしば

トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック

し歓談させていただきました。関社長には、お忙しいスケジュールの中わざわざお出でいただき有り難うございました。障害者の就労に向けた取り組みの輪が社会に広がっていくことに希望を抱いた一日でした。



左から勝又常務、堀込課長、関社長

2000年度法人表彰式

さる10月3日、中野サンプラザにおいて東京コロニー2000年度法人表彰式がおこなわれました。

本年度の表彰者は、勤続10年表彰24名、勤続20年表彰3名の合計27名の方でした。

武者所長（東村山工場）の開会の挨拶では、表彰された方々が東京コロニーに就職した10年前、20年前の世相が話されましたが、1979年にイラン革命、1980年ジ

トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック・トピック

ョンレノン射殺事件、1989年昭和天皇崩御、1990年には東西ドイツ統合と時代の移り変わりの早さを改めて感じました。表彰式では、調理事長から一人一人に表彰状と記念品が送られ、続いて理事長よりお祝いと感謝の言葉が述べられました。

式典の後の昼食会では、この10年、20年の様々な思い出が語られ、最後に小川所長（青葉ワークセンター）より「馬齢を重ねて来たと思う人はこれからでも遅くないから頑張るように（一同爆笑）」という激励の言葉で締めくくられました。参加者一同思いを新たにしました一日でした。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。



法人本部 下田 尚登

ベルは大変高いものがあり、他の施設にも見習ってもらいたい面もある反面、障害をもつ人に対する個別対応では弱いところがあるので、車の両輪という考え方で努力をお願いしたいとの意見をいただきました。

「人間の尊厳」というととても大事なことのように感じてしまいがちですが、自分自身がその立場に立つたときに嫌なこと、してほしくないことは誰に対してもやってはいけないことであり、嫌な時は嫌だと言える環境が保障されているかどうかはその原点なのだと思います。あたりまえのことのようですが、知らず知らずの内に……ということにならないように意識した対応が必要だと思います。

副所長 星 忍

東京都大田福祉工場

「心」新たに！

地域に根付いた存在に

去る11月3日、恒例のコロニーフェスティバルが開催されました。国際障害者年を契機に始まったこの催しも、早いもので今回で14回目を迎へ、私が大田工場に来て丁度節目の10回を数えました。

前日の下準備が台風の影響で何も出来ないのと、当日の天気さえも雨

が予想されたので多少不安ではありましたが、曇り空（雨が降りそつな）だったので、半ば強制的に屋外で催すことを決めました。

朝からの会場設定、各々のセクションの準備等に全員で協力し、開始時間を予定より三十分遅らせる事でも入口で待ち構えていた何人かのお客様を招くことが出来ました。

早速、数名が「バザー」へと足を運び、よりよい物を買って求める為に小さな戦いが繰り広げられ、会場内には、リンゴの香りと、焼きそば、餃子、コーヒー等のいい匂いが漂い始め「視覚・嗅覚・味覚」を刺激し、十分堪能している姿が見られました。

懐かしい金魚すくいや駄菓子屋にも親子連れを頭に、老若男女問わず詰めかけ楽しさを満喫していました。

中央舞台でも「魅せる・聴かせる・参加する」をキーワードに色々な企画を用意しました。

沖縄民謡とフォークソングを融合した心地よいバンドの生演奏。熟練された技の数々が魅了したマジックショー。音楽に合わせて最後には一緒に踊った手話ダンス。恒例のイベント「お客様」限定参加ビンゴ等々。

悪天候の中、大勢の方々に来場して頂き改めて感謝すると共に、「楽しみ」を短時間で地域の皆様、日頃お世話になっている業者の方々に多く提供出来る一つの活動として、今後も継

続しながら地域に根付いた存在になれるよう努めていきたいと思えます。

コロニーフェスティバル

実行委員長 横山教幸



東村山工場

コロニーまつり

10月15日の日曜日、おとしの秋台風でやむなく中止となつて以来2年ぶりの「ころにーまつり」が開催されました。

再スタートとなつた今年は、ここ数年恒例となつている全生園をお借りしての開催から趣向を変え、リフレッシュされた内容になりました。

まずはかわいらしい地域の子供たちの太鼓と威勢のいい歌声で華やかに幕が上がりました。

そしておなじみとなつた障害者施設の手作り品等の販売のナイスハートバザールと、地域の方や従業員も出品したフリーマーケットが一体となり、そこに焼きとりや焼きそばな

どの模擬店も加わり大賑わいでした。また、今回は工場内部を開放しました。インターネット体験コーナーや本人の写真を取り込んでのオリジナルカレンダーの製作、自分で描いたイラストを使ってのオリジナルメモ帳づくりなど、パソコン、印刷、製本などの機器をフルに活用し無料で体験できるイベントが組み込まれ、子供さんから大人まで大好評となりました。

多忙な日常業務に追われながらの準備だったので行き届いた内容にはできなかったのですが、今回は印刷所としてのお祭りという原点に立ち戻つて意義を考え直した企画が成功できてとても良かったと思います。

製造部 長田優子



青葉ワーケーション

日帰り旅行 〜行列ができる店へ行くこと〜

本年10月、「地上333mから眺めよう秋の空、大都会の旅」をキャッチフレーズに、東京タワー見物とバイキング料理を堪能してきました。

毎年、都心や横浜など人気のある観光スポットを中心とした企画が立てられるのですが、内容よりも車いす用トイレの有無や混雑の中を集団で移動することができるとかどつかついた問題が常にブレーキとなり、結果として「企画倒れ」を繰り返していました。

しかし今回初めて、都心の、それも「混雑すること間違いなし」の有名ホテルでバイキング料理を楽しむプランを実行しました。

結果は「案するより産むがやすい」ことわざどおりでした。ホテル側スタッフの対応は、「迷子」になる利用者が出るかも知れない等の職員の先入観を軽く吹き飛ばすほど洗練されたもので、会場までのエスコートを始めとして、サービスの見本を見せられたようなものでした。

利用者のニーズに対して、「できない」とか「無理」と考えるのは、周囲を意識し過ぎる気持ちや何かあ

ったときの責任の所在などに気を使うことが多いからかもしれない。また、私たち職員に欠けているのは「発想の貧しさ」ということを気が付かされた旅行でもありました。

今回実施した貴重な体験を元に、今度はデイズニールランドや横浜中華街等みんなが行く人気スポットへの旅行の実現に向けて取り組みたいと思います。

総務課 金子 貢



東京都葛飾福祉工場

「ホームページできた。」

7月、待望の公式ホームページがデジタルメディアセンターの製作で完成しました。(www.tirenand.net) 『21世紀も安心をお届けします。』をモットーに、防災アドバイスと取扱いの防災・避難用品を全て紹介しています。

今後、防災展の案内や新商品など、最新の情報を発信・公開するのはもちろんのこと、「防災グッズこんな使い方をしています」などの役立つ話や、「営業 君の奮闘記」など心温まる話題も紹介することが出来たらと思います。

より多くの人が、このホームページを通じて災害対策に関心を持ち、活用して頂けるよう、これからも充実した内容をお届けする予定です。

業務課 瀧上肇



IT事業本部

「第2回デジタルな仕事報告会」を開催！

デジタル戦略会議では、12月7日(木)にIT事業本部の会議室で標記報告会を開催しました。

これは、法人全体としてインターネット関連のデジタルな仕事を受注していくために、営業や製造部門の方たちに新しい受注作品の事例を見ていただくことを目的としたものです。昨年の12月に開催し好評であったことから、第2回を開催することになり、今回も各事業所から27名の参加がありました。

職能開発室、コロニー東村山印刷所、DMCから、最近の受注作品のホームページ事例をプロジェクトで大きく写しながらの報告があった他、コロニー中野からは営業マン向けに作成したマニュアルの紹介と共に各事業所にフロップピーに入れたマニュアルのプレゼンもありました。その他、ホームページ受注の際の価格設定や、使用するOS、データベース等の選択についての技術的な話題もあり、貴重な情報交換の機会にもなりました。

IT事業本部事務局 加藤留美子

上半期総括事業報告

1. 社会福祉

政府による社会福祉基礎構造改革は、「社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律案」として第147回通常国会に一括して議案提出され、5月11日には衆議院で可決され、5月29日に参議院で可決、成立しました。同法律は2000（平成12）年6月7日に公布され同日より施行されましたが、措置制度の利用制度への変更及び知的障害者福祉等に関する事務の市町村への委譲につきましては2003（平成15）年4月1日より施行されることとされています。法改正に連動して通知、通達等で社会福祉法人会計基準や施設サービス共通評価基準等が矢継ぎ早に示され、当法人としても、これらに伴う様々な対応が求められる状況にあります。

東京都はこれまでの援護費を大幅に見直し、本年1月1日より「民間社会福祉施設サービス推進費補助事業」として実施しました。当該施策の実態として東京都の施策の方向にあるべき論が見えないままに毎年減額されていく状況に対して、当法人は東京都福祉局長に宛て制度施策の整合性についての意見書を提出しましたが、実施以前に関係団体との協議は済んでいるとして回答さえもされていません。

福祉分野における大きな変革期にあつて、健全な福祉社会の実現に向

けて民間の社会福祉事業の在り様や運動体としての取り組みが改めて問われており、当法人としても全国社会福祉協議会を始め、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコ口等で一定の役割を担うとともに積極的にその役割を果たせるようさらに取り組みを強化する必要性を痛感しています。なお、昨年度より本格的な取り組み課題とした各事業所が所在する区市等との関係づくりについては、中野区においては就労支援ネットワーク等の取り組みが本格化し、新宿区（早稲田）においてはサーバー等の提供を通じて広範な関係づくりを継続しています。また、東村山市においては本年度より市当局との関係強化のための協議を始め、さらに地域の福祉ニーズを共に協力して担うことの可能性について意見交換をしています。

わが国の経済は、政府によれば「景気は、厳しい状況をなお脱していないが、緩やかな改善が続いている。各種の政策効果やアジア経済の回復などの影響はやや薄らいでいるものの、企業部門を中心に自立的回復に向けた動きが続いている。」（経済企画庁月例経済報告・2000・10・17）としていますが、完全失業率や倒産件数が高い水準で推移し、個人消費も改善されていないことから自立的回復基調への道筋はなお険しい状況にあると言わざるを得ないと思われ

ます。

当法人の主力事業である印刷業は、こうした経済状況に加えて、社会の情報化や循環型社会への高まりによって、産業構造そのものの転換が迫られており、受注環境がデジタル化指向を強める中で、これに対応するカラー印刷機器等の設備整備の必要性に迫られることとなりました。こうした状況の対応策として新工場開設の可能性について検討し、具体化を図ることにしました。また、印刷用紙が製紙業界の寡占化が進む中で高騰し、卸商から年間契約での取引が逆ざやになっている状況の解消策として価格改訂の申し入れがあり、下半期の大きな変動要素となっています。

情報処理事業は、本年度より定款に定める公益事業を再編・統合し発足したIT事業本部において効率的な運用を図り、デジタル化社会に備えてより先進的な分野に踏み込んだ取り組み体制としましたが、現段階では営業の弱さ等から波に乗り切れない状況にあります。

縫製・製袋・防災用品等製造販売事業は、年度当初より防災用品の受注減により業績が若干悪化しましたが、上半期後半から持ち直し、縫製・製袋部門についても受注対策に努め成果を上げつつあります。

メールサービス事業は、前年度に経営が急激に悪化しましたが、前年

度下半期より始めた経営対策により経費節減が図られ堅調な経営状況となりました。

生活施設は、国分寺戸倉寮が一昨年度に定員を充足したことにより、本年度も堅調な経営状況となりました。また、生活寮が国のグループホーム事業となったことから10月1日付で第2種社会福祉事業としての届出を東京都に対して行いました。

全事業所トータルでの上半期の損益状況は 163,164千円でしたが、決算では33,391千円の剰余金計上を見込んでいます。

全事業所トータルでの人員の異動状況は、在籍者数が65名で1999年度末に比べ4名の減となりました。この中には施設利用者の3名減が含まれていますが、下半期には東村山工場および青葉ワークセンターの欠員補充が見込まれていることから一時的な状況であります。

2. 個別事業状況

(1) 法人本部

法人全体の諸問題の処理、各事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行いました。懸案となっていた中野工場の敷地取得事業については、東京都財務局と本年8月8日に売買契約を交わし、同日に所有権が当法人に移転されました。土地取得資金110,086千円については、77,000千円を社

会福祉・医療事業団、33,000千円を市中銀行の融資により調達しました。基本財産への編入については11月25日の理事会・評議員会の審議を経て定款変更申請等の必要な手続を行いました。

東京都社会福祉協議会への出向者1名を中野工場へ異動し、後任に大田工場から異動する人事を行いました。また、全国社会福祉協議会・中央セルブセンターの事業であるナイスハートショップ・パレットへの担当職員の出向を本年度も継続し、この事業への協力を行いました。

全事業所をネットワークするEメールやホームページについて、その活用を拡大させるとともに、法人のホームページを維持管理し逐次更新し、障害者問題全般についての情報収集と提供を行いました。また、本年度も福祉講座を開催することとし、そのための準備を行いました。

東京ココニー創立50周年記念事業企画委員会を本部で掌理し、来年度実施に向けた検討を重ね、答申案を上半期末に提出しました。下半期には実行委員会を設け、次年度事業開始に向けた詰め作業に入ることとしています。

(2) 新事業開発室

当面の事業および福祉活動面において、積極的な投資により新たな可能性を創造するため本年度より法人本部事務局内に新たに設けたセ

クションであります。上半期においてはデジタル化・ネットワーク化の中での新事業・新領域の開拓や法人ビルの再活用、中野区内における障害者施設の開設等の検討を行いました。

中野工場と連携し、「中野区就労支援ネットワーク」の中で一定の役割を果たすとともに、「ハローワーク新宿」や民間企業と協議を進め、新たな雇用の場の開設や新施設開設に向けた中野区や関係団体との協議を進めました。このセクションについては下半期にはさらにその役割等を大きく見直すこととしています。

(3) 情報処理事業(トータル情報処理センター職能開発室、トータル情報処理センター事業部、DMC)

トータル情報処理センター職能開発室は、本年度より東京都在宅パソコン講習事業(教育)、SOHO支援事業(就労支援)、職業紹介・コンサルテーション事業(雇用支援)の各分野での先進的な役割を果たすこととして発足させましたが、確実に実績を上げつつ推移しました。

トータル情報処理センター事業部は、トータル情報処理センターの事業面を引き継ぎ市役所委託業務およびデータ入力業務の各分野を通じて障害者の多様な就労形態を保障・拡大する事業として本年度当初より堅実な経営状況で推移しています。

DMC(デジタルメディアセンタ

ー)は、本年度より関連事業本部を移転集約しスタートさせましたが、Web関係の受注は伸びているものの、既存のシステム開発部門の急激な受注減によって険しい状況での上半期となりました。しかし、システム開発部門のネットワークを意識したオープン系システム開発への展開に着手していることから先進的分野を開拓する役割については一定の目処がつきつつあります。

(4) 情報処理・メールサービス事業(トータル青葉ワークセンター、トータル青葉第二ワークセンター、トータル青葉第三ワークセンター)

当センターにおける情報処理事業は規模(人員、受注額等)においてはそれ程に大きなものとなっていませんが、名簿管理やそのデータベースの構築などメールサービス業務と密着した内容により、全事業トータルでは着実にその役割を果たしています。本年度上半期においてはソフト開発での落込みがやや目立ち始めていますが、簡易印刷業務の増大もあって事業トータルとしては前年より好転して推移しています。なお、メールサービス事業は前年度の業績不振を踏まえて事業再建を第一に取り組み、上半期は堅調な経営状況で推移しました。新規顧客開拓や製造コストの削減等を進めるとともに、欠員の補充を最小限にとどめることでの固定費の大幅圧縮によって、累

表 1

株式会社コロニーとうきょうの連結損益計算書

(単位：千円)

		1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度
1. 法人本部(含 生活施設)	仮決算	△15,145	△4,430	△8,819	△10,038	△13,425	△12,460
	決算	16,051	24,621	25,985	4,524	16,144	+ △21,714
	損益累計	31,271	56,092	81,787	88,311	182,455	+ 80,741
2. IT事業本部	仮決算	△11,571	△11,016	△15,948	△3,872	△855	△13,049
	決算	△12,672	2,428	431	5,842	1,182	+ △4,888
	損益累計	8,730	12,159	12,591	16,434	21,818	+ 18,728
(1) 職能開発室(古事務局)	仮決算	-	-	-	-	-	1,897
	決算	-	-	-	-	-	+ 2,882
	損益累計	-	-	-	-	-	+ 2,682
(2) デジ外ゲイ(含7-11)	仮決算	△884	△1,741	△7,344	△3,771	4,105	△22,681
	決算	△12	△679	△4,112	1,012	275	+ △18,007
	損益累計	8,436	7,786	2,654	4,667	4,942	+ △13,085
(3) トコ情報処理センター事業部	仮決算	△10,687	△3,275	△8,604	93	△4,768	4,715
	決算	△12,888	2,089	4,543	4,830	2,987	+ 10,435
	損益累計	1,284	4,383	8,597	13,787	16,874	+ 27,108
3. 印刷事業計	仮決算	△183,514	△128,516	△118,112	△166,985	△89,489	△64,819
	決算	△183,953	△115,416	△153,736	△143,222	△28,158	+ 18,148
	損益累計	△418,586	△524,034	△877,742	△820,364	△850,123	+ △831,877
(1) 一豊会計(含 のの七)	仮決算	△7,188	△5,815	△18,180	8,804	7,002	8,042
	決算	△7,418	△18,988	△31,841	17,937	14,215	+ 16,295
	損益累計	△44,201	△53,208	△85,049	△87,052	△52,837	+ △36,542
+ のの七は97年まで							
(2) コロ中野(含 コロ印刷所)	仮決算	△71,709	△46,848	△41,484	△75,281	△29,233	△9,436
	決算	△60,490	△63,803	△82,813	△93,898	△49,310	+ 21
	損益累計	△144,819	△210,622	△289,438	△389,334	△438,644	+ △428,623
(3) コロ東村山印刷所(含 コロ東村山)	仮決算	△7,333	△28,399	△8,228	△44,215	△8,463	△21,829
	決算	△1,069	842	1,678	△34,880	1,480	+ 0
	損益累計	△8,531	△87,689	△9,904	△130,514	△125,034	+ △121,834
(4) 東京軽大田福祉工場	仮決算	△83,303	△48,463	△44,302	△50,895	△48,715	△42,386
	決算	△72,065	△33,467	△62,758	△28,820	456	+ 1,830
	損益累計	△131,018	△164,485	△207,243	△234,863	△233,607	+ △231,777
4. トコ青葉センター(含 第二・第三)	仮決算	2,382	2,845	△582	743	△7,356	18,579
	決算	140	4,107	342	1,753	△11,752	+ 5,662
	損益累計	△12,795	△8,639	△8,295	△5,542	△18,294	+ △12,632
5. 東京都葛飾福祉工場	仮決算	874,869	159,824	△20,228	△47,092	△29,896	△78,635
	決算	1,186,626	425,801	74,919	13,194	182,243	+ 38,227
	特別積立		△1,280,000	500,000	100,000	0	0
	損益累計	823,665	48,666	624,275	739,819	842,112	+ 880,329
合 計	仮決算	483,582	28,723	△137,704	△217,372	△120,886	△163,784
	決算	948,782	341,742	△52,650	△115,508	80,858	+ 35,431
	特別積立		△1,280,000	500,000	100,000	0	0
	損益累計	442,532	△414,728	32,615	17,107	97,745	+ 133,194

+ 見込額

積欠損額を消し込める剰余金の計上となりました。

**(5) 清掃事業（トローココ青葉第三ワー
クセンター）**

合築施設全体の業務を行うとともに、東村山工場や近隣福祉施設など外部施設の館内清掃などを行いました。また、法人内の各事業所のフロアのワックス清掃を不定期で行いました。こうした活動から事業的には着実に成果を上げつつあります。

(6) 印刷事業（ココニー中野、ココニー印刷所、ココニー東村山印刷所、ココニー東村山、東京都大田福祉工場）

本年度は印刷事業の再建を本格化させるため、より現場が見える運営体制として、東村山工場所長を本部長とする執行体制で臨みました。

中野工場は、売上高、加工高ともに前年実績を上回ったことや、経費を削減したことなどから、損益では前年に比べ大きく好転しましたが、事業計画を完全に達成するまでには至りませんでした。

東村山工場は、売上高を伸ばしたものの加工高が減少し、利用者減による措置費収入減もあり、損益は前年に比べ悪化しました。

大田工場は、売上高は伸びているものの加工高が伸びず、損益は前年並の結果を残すこととなりました。

印刷事業全体としては受注の回復傾向は見られるものの、カラーもの

や大口ツトものを中心に設備上の問題から外注加工が増加しており、内作化に向けた新工場設置の検討を始め補助申請ができるまでの条件整備を終えました。

(7) 縫製、製袋、防災・安全用品等製造販売事業（東京都葛飾福祉工場）

縫製部門は赤字体質から脱却していませんが、赤字減少のため繊維製品の納入や年間スケジュールの安定化と都が発注する作業服、防災服等の受注拡大を図りました。

製袋部門は価格競争が激化しているため、前年度導入した大型設備の稼働率を上げるための受注確保を図っています。

防災・安全用品等製造販売事業は年度当初より売上高が前年を下回ったものの、徐々に回復しつつあり上半期後半には受注も増え、下半期には一定の受注見込みがあることから堅調に推移すると見込んでいます。

（常務理事・事務局長 勝又和夫）

評議員会、理事会から

上記の本年度上半期事業報告は11月25日の評議員会・理事会で承認されましたが、前号（7月10日発行）以降の評議員会、理事会の開催状況および主な審議事項は以下のとおりとなっております。

- ・第143回理事会（8月24日）
- ・社会事業授産施設新設整備事業関連審議事項5件
- ・会計基準対応システムに関する件。
- ・第144回理事会（9月26日）
- ・日本自転車振興会への補助金申請に関する件
- ・第145回理事会（10月17日）
- ・社会事業授産施設新設整備および設備事業に関する件
- ・第19回評議員会（11月25日）
- ・2000（平成12）年度上半期事業報告および仮決算に関する件
- ・定款変更および関連諸規程改訂に関する件
- ・東京都福祉局文書指摘事項に対する文書回答に関する件
- ・社会事業授産施設新設整備事業に関する件
- ・理事・監事の選任に関する件 他
- ・第146回理事会（11月25日）
- ・2000（平成12）年度上半期事業報告および仮決算に関する件
- ・定款変更および関連諸規程改訂に関する件
- ・東京都福祉局文書指摘事項に対す

る文書回答に関する件
 ・評議員の選任に関する件 他
 第147回理事会（11月25日）
 ・理事長等の選任に関する件
 ・理事長等事故ある時の代理者に関する件

第143回、第144回、第145回理事会および第19回評議員会において、社会事業授産施設新設整備事業についての審議がなされ、当該事業を推進することが決定されました。
 本事業については現在関係諸機関および団体と協議を進めており、事業実施の目処がついた段階で本誌に詳細を掲載いたします。

第19回評議員会・第146回理事会において任期満了に伴う役員改選がおこなわれ、評議員の伊東祐政氏と吉国譲二氏が退任し、新たに佐々木洋文氏と片江啓訓氏が選任されました。その他の役員は全て再任されました。

また、常勤役員として専務理事をおくこととし、これに伴う定款変更および定款施行細則の改訂が承認されました。東京都から定款変更承認がされ次第実施することとなります。
 なお、幹部職員（所長級）人事として12月21日付で勝又常務理事が中野工場の所長職を離れ、
 ・中野工場所長 武者 明彦
 ・東村山工場所長 中村 敏彦
 とすることが承認されました。

ケースワーカーの助っ人 『Caseサポートシステム』

コロニー中野工場 小川 弘子

昨年4月、コロニー中野工場のケースワーカーとして新たな仕事が始まりました。「ケースワーカーってどんな仕事をするのですか？」とよく質問をいただきます。私的的確な答えを出すことはできないのですが、利用者一人ひとりの秘めたる力を引き出す支援をすることではないだろうかと思います。そのためには、一人ひとりとのかかわりの時間をもっとも大切にしたい。とすれば、日常の対人援助の時間を除く仕事で一番効率の悪い仕事を探し効率化を図ることで時間を創出することしかない。効率が悪くともしなければならぬ仕事は何か？ それは、ケースワーカーが作成する業務日誌から利用者の個別のファイルに転記することと情報を検索することでした。この転記と検索を正しく瞬時にやってくれるのはやっぱりコンピュータしかない。

そこで、手書きの業務日誌からPCを使って必要記事を入力し、利用者の個別のケース記録を自動生成するシステム『Caseサポートシステム』を開発しました(*1)。このシステムは、毎日の業務日誌の入力と印刷、個別のケース記録の印刷、データの検索、データをできるだけ数値化して客観的な把握をするために統計情報を自動生成できるようにしました。この他にもデータベースのメンテナンスの機能ももちろんあります。記録の転記作業ではどの施設でも悩みの種だと聞いているので、できれば本システムを他の施設でも利用できるようにと、システムは極めてシンプル(多様な機能をもたない)で簡便な操作性とカスタマイズ性を重視した仕様としています。

本システムを利用することにより、日誌から個別のファイルへの転記作業は全く発生しません。しかも、入力したデータの検索も語彙などのキーワードを入力すれば瞬時に出来ますので、これまでのように過去にさかのぼって日誌や個別のファイルの用紙をばらばらとめくることもなくなり、転記や検索に費やす時間を大幅に軽減することができました。

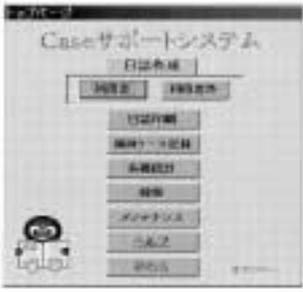
この結果、相談援助の時間を創出することができ、個別のニーズに沿った支援が少しずつですができつつあります。まだまだケースワーカーとしては未熟で毎日が勉強で失敗も多く、利用者の方にはご迷惑をかけていますが、皆さんと一緒に力を付けていきたいと思っています。

また、本システムをできるだけ多くの施設で使っていたければと思っておりますが、まだ若干の修正作業がありますので修正作業が終わり次第、他の施設へ広げたいと考えております。さらに、本システムのバージョンアップもしていきたいと思っています。

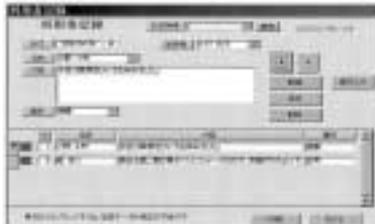
(*1) 本システムの開発には、情報処理センター職能開発室の「重度身体障害者在宅パソコン講習事業」の修了生にお願いしました。Access1000を使って開発をしましたが、途中予期せぬ不具合にも見舞われ、しかもオーダーしたお客がわがまま(私のこと)でニーズも厳しく大変だったとは思いますが、おそらくこの仕事を通してソフト開発の醍醐味を体験してくれたものと信じています。



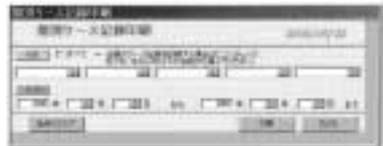
CASEサポートシステム



日誌作成



個別ケース記録印刷





アートバンク ギャラリー 48

のむら いくよ
野村 育葉さん



障害者アートバンク

1986年設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。

今回のギャラリーに使用致しました作品は、第12回障害者アートバンク・日立キャピタル特別賞を受賞した「野村育葉」さんの作品です。11月17日に開催致しました授賞式には、ご都合により出席して頂く事が出来なかつたのですが、当日ご本人から素敵なお手紙を頂きましたので、ここでご紹介させて頂きます。

「感謝をいめて」

予期せぬ夢のようなお知らせが耳に届いて、殊のほか嬉しく感謝するばかりです。

唯ただ絵が好きだけでなく、拙いものばかり披露してきましたそのわたしの絵が「日立キャピタル特別賞」という賞を戴けることは、ひとえにいつもチャンスを与えてくださって応援してくださっているアートバンクの方々はじめ、起用して下さる色々な団体の皆様のおかげ！

そして、たえずわたしの画業を支えてくれているすべてのもの、家族・友人・恩師・知人・鉛筆・絵具に紙・生きているすべて・人びと・犬や猫たち・野に咲く花花・樹木・星も雨も・宇宙すべて。

もう嬉しくってすべてに感謝です。
からだか不自由というよりは「不器っこよ」
生きるのが不器っこよなのわたしが、絵を描き続けられるのは誰のためでもなくわたし自信を癒すため、わたしへの救いへと繋がるから。

こうして描いてきたわたしの絵が、皆様によってこんなに高く評価していただけたこと、言葉に表せないほど幸せです。

言葉ではけっして表しきれない「いっぱい」のことを、どんどん どんどん どんどん 絵にしていきたい！わたしには「絵」しかないのだ！と益々感じています。これからも描きつづけます。命のかぎり。ありがとうございます。

霜月十七日

野村 育葉

障害者アートバンク大賞

11月17日(金)に第12回障害者アートバンク大賞が開催されました。

本年度より、大賞そのものの規模を縮小し、より作家とユーザーとの歓談を中心に式典を開催しました。おかげさまで持ちまして、小さいながらも内容の濃い式典となり、ご来場者の方々からも好評でした。

本年度の各賞受賞者ですが、アサヒビール奨励賞には「大志田洋子さん」、日立キャピタル特別賞には「野村育葉さん」、障害者アートバンク大賞は「該当者なし」、世紀末を記念して今回特別に設けられたミレニアム賞には「嵐礼次さん」でした。

事務局では、来年度こそは障害者アートバンク大賞受賞者を生み出すべく、より一層業務に励みますので今後とも宜しくお願い致します。

障害者アートバンク事務局

水野 多賀子



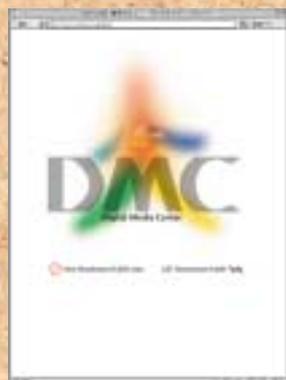
東京コロニーの ホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー中野・コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



IT事業本部事務局
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/>



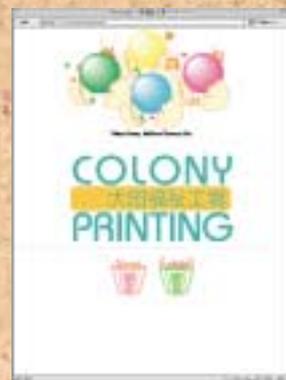
コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



障害者アートバンク
<http://www.art-bank.net/>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.bekkoame.ne.jp/aobawork/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>